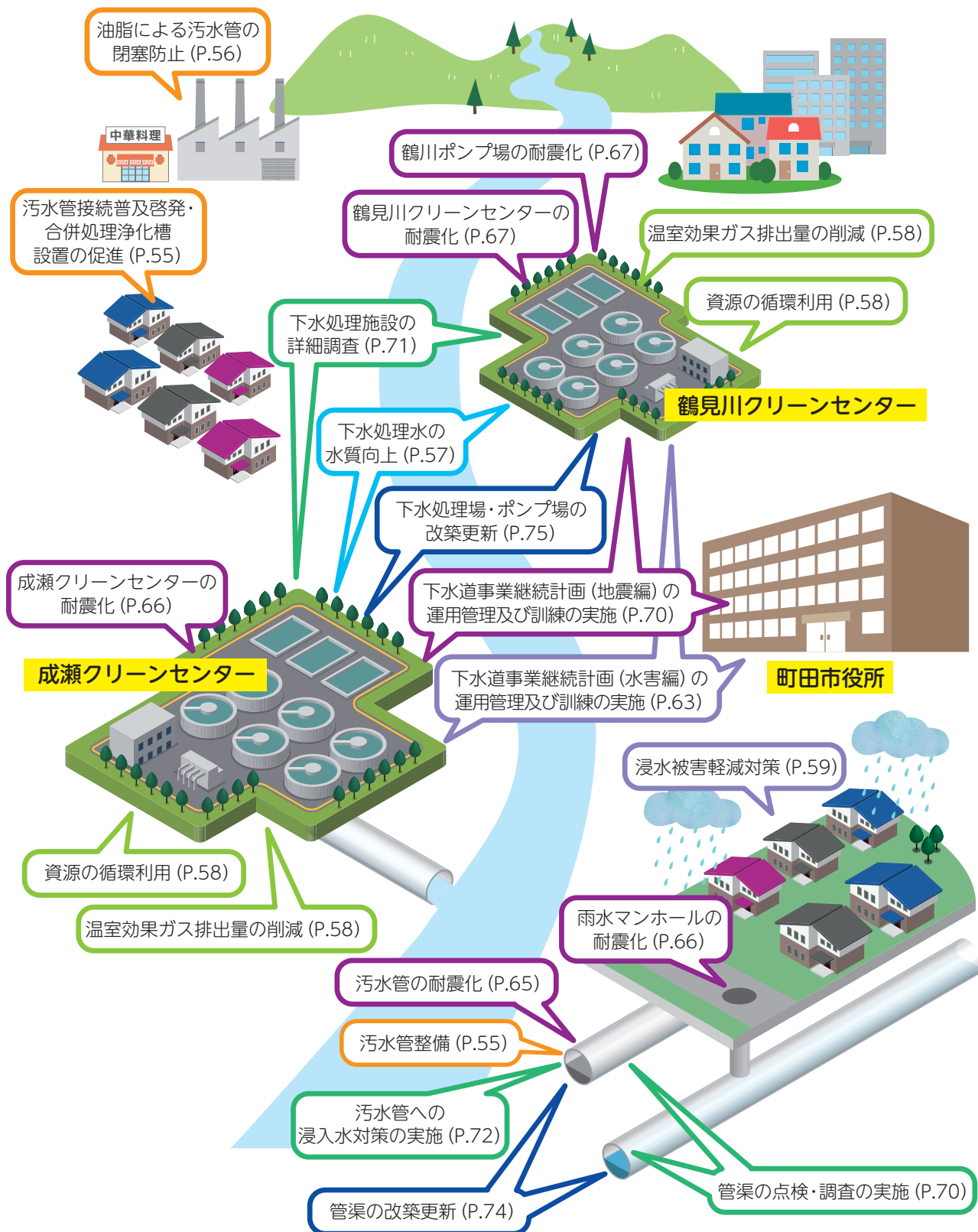


第6章 10カ年の事業計画

| 基本理念 | 基本方針 | 施策体系 | | | | |
|--|-------------------------|--------------------|----------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|--------------|
| | | 小施策 | 事業 (※:一般会計事業) | 指標 | 目標 | |
| 環境に配慮した施設づくりの推進 災害に強いまちづくりの推進・安心な暮らしの構築 経営の効率化及び健全化・導入 | 1 | (1)住環境の改善 | | | | |
| | | ① 公共用水域の水質改善 | 污水管整備 | 人口普及率 | 人口普及率99.5%(2035年度末時点) | |
| | | | 污水管接続普及啓発・合併処理浄化槽設置の促進 | 水洗化率 | 水洗化率向上 | |
| | | ② 油脂による污水管の閉塞防止 | 油脂による污水管の閉塞防止 | 年間管渠清掃延長 | 2035年度清掃延長:2.80km以内 | |
| | | (2)河川の水質向上への貢献 | | | | |
| | | ① 下水処理水の水質向上 | 下水処理水の水質向上 | 高効率散気装置導入率 | 導入率100%(2033年度完了予定) | |
| | | (3)地球温暖化対策と資源の循環利用 | | | | |
| | | ① 温室効果ガスの削減 | 温室効果ガス排出量の削減 | 温室効果ガス排出量 | 排出量削減 (2030年度:2013年度比46%削減) | |
| | | ② エネルギー・資源の有効利用 | 資源の循環利用 | 再資源化率 | 再資源化率100% | |
| | 2 | (1)浸水対策の推進 | | | | |
| | | ① 浸水対策 | 浸水被害軽減対策 | 浸水被害軽減対策箇所 | 5箇所完了 | |
| | | | ※ 雨水浸透設備設置助成事業 | 雨水浸透設備設置補助 | 年10件 | |
| | | | ※ 豪雨前のバトロールの実施 | 道路冠水のリスク低減 | バトロールの実施 | |
| | | | ※ 水路などの維持管理の推進 | 修繕計画に基づく計画的な維持管理 | 計画的な維持管理の実施 | |
| | | | ※ 雨水調整池の維持管理の推進 | 管理計画に基づく効率的な維持管理 | 計画に基づいた維持管理 | |
| | | | ※ 流域関係者との流域治水に関する連携・協力の推進 | 流域関係者(国・流域自治体・市民・NPO法人・企業)との連携・協力の推進 | 連携・協力の推進 | |
| | | | ※ 情報発信を通じた浸水対策の周知の実施 | 情報発信による浸水対策の周知 | 浸水対策の周知の実施 | |
| | | | 下水道事業継続計画(水害編)の運用管理及び訓練の実施 | 被災時の事業継続 | 計画の運用・訓練の実施 | |
| | | (2)地震対策の推進 | | | | |
| | | ① 管渠・処理施設の耐震化 | 污水管の耐震化 | 污水管の耐震化率 | 耐震化率100%(2029年度完了予定) | |
| | | | 雨水マンホールの耐震化 | 雨水マンホールの耐震化率 | 耐震化率100%(2029年度完了予定) | |
| | | | 成瀬クリーンセンターの耐震化 | 成瀬クリーンセンターの耐震化率 | 耐震化率 96.4%(2035年度末時点) | |
| | | | 鶴見川クリーンセンターの耐震化 | 鶴見川クリーンセンターの耐震化率 | 耐震化率 79.4%(2035年度末時点) | |
| | | | 鶴川ポンプ場の耐震化 | 鶴川ポンプ場の耐震化率 | 耐震化率 100%(2034年度完了予定) | |
| | | ② 地震対策 | 下水道事業継続計画(地震編)の運用管理及び訓練の実施 | 被災時の事業継続 | 計画の運用・訓練の実施 | |
| | | 3 | (1)効率的・効果的な維持管理の推進 | | | |
| | | | ① 状態監視保全の維持管理 | 管渠の点検・調査の実施 | 下水道管の点検・調査延長 | 点検・調査延長586km |
| 下水処理施設の詳細調査 | 下水処理施設の詳細調査件数 | | | 年10件以上 | | |
| ② 污水管への浸入水対策 | 污水管への浸入水対策の実施 | | 誤接続箇所の改善指導率 | 改善指導率 100% | | |
| ③ 地理情報システムを用いた維持管理情報の一元管理 | 地理情報システムを用いた維持管理情報の一元管理 | | 効率的な維持管理 | 維持管理の実施 | | |
| ④ 民間活力の導入 | 民間のノウハウの活用 | | 新たな担い手の活用 | 新たな事業形態や運用方法の検討・実施 | | |
| (2)計画的な改築更新 | | | | | | |
| ① 「町田市ストックマネジメント計画」に基づく改築更新 | 管渠の改築更新 | | 改築更新の実施 | 污水管工事延長:15.0km 雨水管工事延長:13.4km | | |
| | 下水処理場・ポンプ場の改築更新 | | 改築更新の実施 | 下水処理場・ポンプ場の改築更新 | | |
| (3)持続可能な下水道財政基盤の確立 | | | | | | |
| ① 資産の有効活用 | 資産の有効活用 | 下水道資産の有効活用 | 有効活用の実施 | | | |

町田市下水道ビジョンで掲げた3つの基本方針の実現に向けて事業を実施します。

10カ年の実施事業イメージ



1. 環境に配慮した施設整備・より良い環境づくりの推進

(1) 住環境の改善

① 共用水域の水質改善

1) 污水管整備

当市では1964年度から下水道事業に着手し、住環境の改善、河川の水質向上を目指して事業を進め、2024年度末には下水道人口普及率*が99.1%に達しました。

「町田市公共下水道事業計画」に基づき、市街化区域^{※1}における都市計画道路未整備箇所、私道などへの污水管整備を進めるとともに、市街化調整区域^{※2}においては地域性を踏まえた污水管整備を進めることで、2035年度末の下水道人口普及率99.5%を目指します。

表6-1 污水管整備延長と年度別事業費

| 年度 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 | 2031 | 2032 | 2033 | 2034 | 2035 | 合計 |
|--------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 整備延長 (km) | 2 | 1 | 1.5 | 1.6 | 1 | 0.7 | 0.7 | 0.7 | 1 | 0.9 | 11.1 |
| 污水管整備費 (百万円) | 908 | 595 | 440 | 483 | 328 | 267 | 269 | 282 | 372 | 305 | 4,249 |

2) 污水管接続普及啓発・合併処理浄化槽設置の促進

污水管整備済区域における接続普及啓発を実施するとともに、「町田市公共下水道事業計画」区域外においては合併処理浄化槽^{※3}設置促進を図ることで、水洗化率^{※4}向上を目指します。

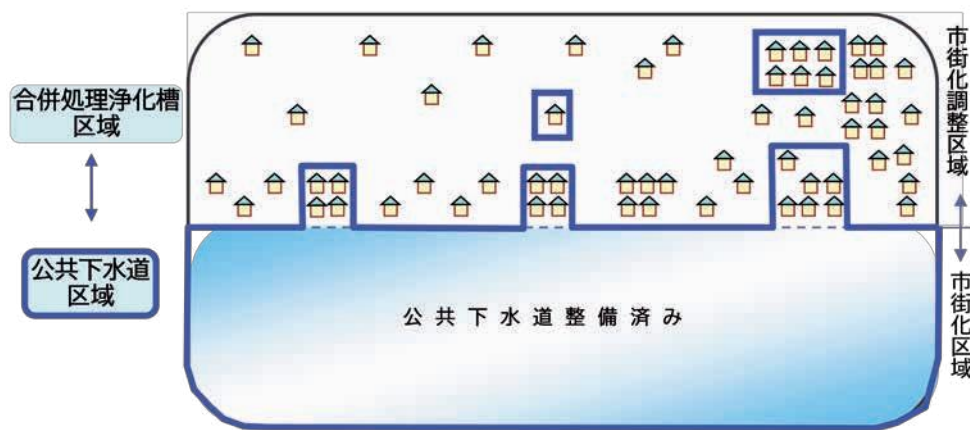


図6-1 公共下水道と合併浄化槽との分けイメージ図

※1 都市計画法に基づき区分される区域の一つで、既に市街地を形成している区域及び概ね10年以内に優先的、計画的に市街化を図るべきとされている区域。
 ※2 都市計画法に基づき区分される区域の一つで、市街化を抑制すべき区域。開発行為は原則として抑制され、都市施設の整備も原則としておこなわれない。
 ※3 各家庭や事業所から排出されるし尿及び生活雑排水を微生物の働きで浄化し、側溝などを經由して河川に放流するための設備。
 ※4 行政区域内人口に対する、公共下水道への接続または合併処理浄化槽による汚水処理をしている人口の割合。

② 油脂による汚水管の閉塞防止

1) 油脂による汚水管の閉塞防止

飲食店などがグリーストラップ^{※5}を適正に利用していないと、汚水管に流出した油脂により管が閉塞し、下水道の利用に支障をきたすことがあります。

汚水管の閉塞を防ぐために、飲食店などを訪問し、グリーストラップの点検、清掃などの適正な維持管理方法を周知し、油脂を起因とした詰まりによる管清掃延長を減らします。

表6-2 管清掃延長と管清掃費用

| 年度 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 | 2031 | 2032 | 2033 | 2034 | 2035 | 合計 |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 管清掃延長 (km) | 3.16 | 3.12 | 3.08 | 3.04 | 3.00 | 2.96 | 2.92 | 2.88 | 2.84 | 2.80 | 29.80 |
| 管清掃費用 (百万円) | 8.05 | 7.95 | 7.85 | 7.74 | 7.64 | 7.54 | 7.44 | 7.34 | 7.23 | 7.13 | 75.91 |

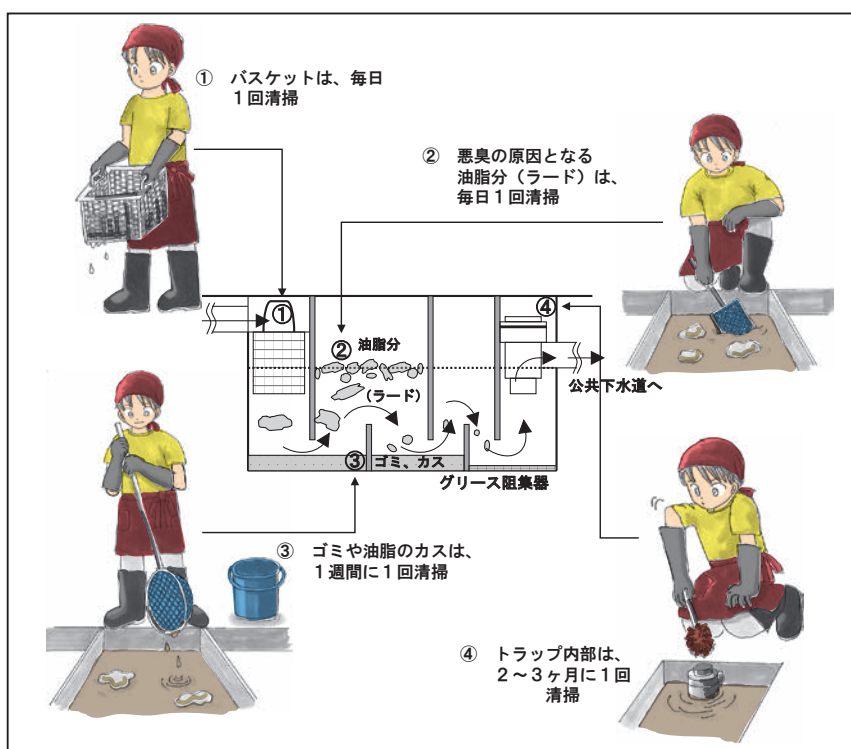


図6-2 グリーストラップの構造と適正な維持管理



図6-3 油脂がたまった下水道管の内部

※5 飲食店や食肉加工工場において下水管に直接油脂が流出するのを防ぐため、法的に厨房などへの設置が義務付けられた油脂分離阻集器のこと。